

フランコ=ベルギー楽派の

Cellist Composers Collection

Cello Recital

ダンボア / 古いスタイルのソナタ

M.Dambois / SONATE DANS LE STYLE ANCIEN op.20

セルヴェ・グレゴワール共作 / マイヤベアの「預言者」によるデュオ

F.Servais/J.Gregoir / DUO "Le Prophete"

ホルマン / ワルツ、カルメン ファンタジー

J.Holman / Valse, Carmen Fantasia

ダンボア / ポエム、パピヨン、悲歌、グリーン、

M.Dambois / Poeme, Papillons, Chant Elégiaque, Green,

セルヴェ / オ・カラ・メモリアによるファンタジーとヴァリアシオン 作品17

F.Servais / O Cara Memoria, Fantaisie et Variations

■フランコ=ベルギー楽派 ヴァイオリン界では19~20世紀初頭にかけて、ベリオ、ヴェータン、イザイらに代表されるベルギー楽派が確固たる地位を形成していましたが、同時期にチェロにおいても名手が最高水準の演奏技術を持っていました。ベルギーは弦楽器を学ぶ聖地として繁栄していました。

■ベルギー楽派中心的チェリスト「セルヴェ」1807~1866 ブリュッセル近郊ハレ生まれの当時を代表するチェリスト作曲家F.セルヴェは、ヴァイオリンの技術をそのままチェロに当てはめたような作風で「チェロのパガニーニ」と言われていました。ベルギー駒やエンドピンの発明者で、ウィーンフィルの創立記念演奏会でソリストも務め、彼の弟子や孫弟子からは、優秀なチェロ奏者が数多く育ちました。

■セルヴェ協会名誉会員の林裕が厳選した傑作の数々 林裕は2018年にベルギーのセルヴェ協会から招待を受け、協会発足15周年の記念演奏を現地で行い、セルヴェの絶版楽譜も数多く閲覧しました。今回のコンサートでは協会から特別に提供していただいたセルヴェ作品に加え、フランコ=ベルギー楽派に属するチェリスト、ホルマンとダンボアの作品を演奏します。ホルマンは日本の徳川家とも縁があり、南葵音楽文庫に千点以上の楽譜が残されています。ダンボアはイザイとトリオを組んでいた没後50年のチェリストです。

◎ 全自由席

前売 ¥3,500

当日 ¥4,000

学生 ¥2,000

【主催・お問合せ】

音楽企画ユーモレスク

TEL : 080-3773-4366

CELLO

林 裕

セルヴェ協会名誉会員



ムジカーザ

2019.10.10(木) 19:00~ 開場18:30

◆代々木上原 (渋谷区西原3-33-1)

チケット取扱専用アドレス servais.japan@gmail.com

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院 小ホール

2019.11.2 (土) 14:00~ 開場13:30

チケット取扱 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255



PIANO 佐竹 裕介

CELLO 林 裕

東京藝術大学卒。日本音楽コンクール第一位、黒柳賞を受賞。アフィニス文化財団、ローム音楽財団の奨学生として、フライブルク音楽大学院を首席修了。青山音楽賞、松方ホール音楽賞大賞、大阪文化祭賞グランプリ、文化庁芸術祭優秀賞を受賞。CD「SOLO ist」がレコード芸術の特選盤になった。元大阪フィルトップ奏者。元相愛大学准教授、神戸女学院講師。セルヴェ協会名誉会員。林 裕HP <http://www.yutaka-hayashi.vc/>

PIANO 佐竹 裕介

京都市芸術大学を卒業。京都音楽協会賞を受賞。同大学院修士課程を修了。大学派遣によりフライブルク音楽大学へ交換留学。京都芸術祭新人賞を受賞。京都市交響楽団、京都フィルハーモニー室内合奏団と協奏曲を共演。これまでに森本雅子、両澤隆弘、迫昭嘉、阿部裕之、上野真、M.ロイシュナーの各氏に師事。ロームミュージックファンデーション奨学生。NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演。

Servaisakademie,Belgium のセルヴェの胸像の前で



セルヴェ (F.Servais) の生誕地、ベルギーHalleでは、教会広場の中央にチェロを持った8mもある彼の像が聳え建っています。



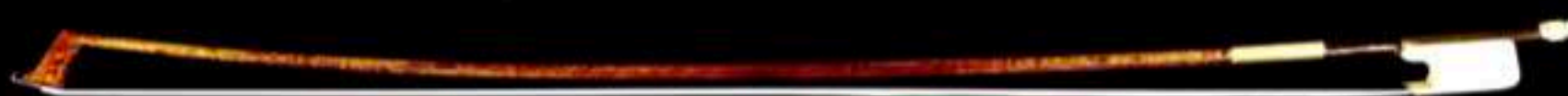
この町では現在でも、ビールやシャパン、レストランメニューに至るまで、Servaisの名前を冠した物であふれ、没後150年経った今でも市民の尊敬を集めています。



セルヴェ協会の協力のもとで、修復が進む
Villa Servais

A.F.Servaisが活躍した当時は、現代に通じるモダン弓のスタイルが、チェロの奏法の発達とともに確立した時代でもありました。

本シリーズの演奏会では“The Servais”という名を持つ19世紀初頭に製作されたチェロ弓が使用されます。弦楽器、特に弓への造詣が深いことで知られた故五十君守康氏（1930-2017）がコレクションされていた門外不出の1本であり、現在、ベルギーServais協会の協力も得て、Servais一族とこの弓との関係が調査されています。フランコ=ベルギー楽派の音楽を当時の豊かな深い音色で楽しんでいただけるものと思います。



晩年の五十君守康氏
Photo by Satoshi Kanai